1. 巻頭言

長崎大学長
齋藤　寛
president@ml.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学は大学独立法人化を目前にして「中期目標・中期計画」を策定中ですが、その中核部分は以下のとおりです。

『長崎大学はこれまで「長崎に根付く伝統的文化を継承しつつ，豊かな心を育み，地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」との理念に基づき、教育・研究活動を展開してきた。新世紀初頭の国立大学法人への移行を契機に、教育研究の更なる高度化と個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な「知の情報発信拠点」であり続けることを基本的な目的とする。』

長崎大学が「知の情報発信拠点」であり続けることに関して「総合情報処理センター」に寄せられる期待はきわめて大きいものがあります。

前号（19号）に掲載された黒田英夫センター長の巻頭言から、本センターの歴史をたどってみます。

『総合情報処理センターは，1970（昭和 45）年に全学共同利用の「電子計算機室」として工学部に設置され，その後学内措置により「情報処理センター」となり，1988（昭和63）年に省令施設として現在の「総合情報処理センター」へと発展してきました。総合情報処理センターは，計算機利用による研究効率の向上を目的として，計算機利用の研究環境を全学共同利用として提供することが，長年の主要業務でありました。その後，インターネット利用の爆発的な増大や，計算機の小型・低廉化の進展による個人利用の急激な浸透，さらには，企業における採用活動のインターネット利用の増大など，社会情勢は一気に情報化の方向を辿りました。総合情報処理センターも同様で，1994（平成6）年には長崎大学キャンパス情報ネットワーク NUNet が，また 1996（平成8）年には ATM ネットワークシステムが稼働するとともに，それまでの主要業務であった研究環境の提供の他に，ネットワークの設計・維持管理及び教育環境の提供が業務として加わることになりました。また情報教育に関しては，教育環境の提供だけでなく，総合情報処理センターとして4コマの情報関連科目の授業も担当するようになりました。上述したような，これまで総合情報処理センターが行ってきた業務はますますその重要度が増す一方であります。』

このような情報センターの機能の拡大と充実がはかられてきた結果、現在、われわれが受けている恩恵は計りしれないものがあるといって過言ではありません。

しかし、社会が日進月歩どころか秒進分歩の情報化を辿っている中で，大学も情報化の流れにただ追随するだけではなく、情報化時代のリーダーにならなければなりません。「知」の殿堂であるべき大学の使命だからです。

本学では、目下、図書館、生涯学習教育研究センター、総合情報処理センターなどを一箇所に集め、情報に関する業務が縦割り、個別に行われることの非効率さを改善し、全体としての効率を飛躍的に高めようとする検討がなされています。

いずれにせよ、近い将来に長崎大学の情報発信・情報処理の方向性と具体的な施策を全学の同意のもとに策定します。

総合情報処理センターにはその中核的な役割りを果たしていただくことになると存じます。どうかよろしくお願いします。

「情報処理は長崎大学に学べ」、この評価をワールドワイドとしないようでは、長崎大学の将来はありません。

皆様のご意見をぜひお寄せ下さい（**president@ml.nagasaki-u.ac.jp**）。